

「嫌い」

敦賀市立粟野中学校 2年 杉本 絆 (すぎもと きずな)

私には小さい頃から母に言われ続けている言葉があります。

「苦手になることは仕方ないけど嫌いになることは絶対ダメだよ。」

という言葉です。

私は保育園年長の頃、自分の好きなもの・苦手なもの・得意なこと・苦手なことなどを自覚できるようになってきました。そして、自分の意見も伝えられるようになって、家族に自分の話をするが増えました。小学一年生になったとき、母親にいつも通り、今日あった出来事を話していました。私がクラスで苦手な人がいて、その話をしているときに

「嫌い。」

という言葉を使いました。その時、普段は優しい母に怒られたことを今でも鮮明に覚えています。それまで「嫌い」と「苦手」の違いが分からず、同じものだと思っていました。この出来事があってから私は「嫌い」という言葉を使うことはなくなりました。友達が、「嫌い」という言葉を使っているのを聞くと心の中でなにか、もやっとするようになったり、私が人に対する考え方も変わるきっかけになりました。ですが、「苦手」と「嫌い」の違いが分からないままでした。言い方が違うだけで意味は一緒だと思っていたので、ある日、正直に母に聞いてみました。すると、自分が思ってもいなかった答えが返ってきました。

「母自身もあまり分からないんだよね。」

と半笑いで言われました。私はてっきり母が何か経験したことがあってそんなことを言っているのかな？と思っていたのに根拠がないと知り、とても驚きました。でも、今思えばたしかに決定的な違いはないなと思いました。が、「苦手」や「嫌い」と言われたときの気持ちに違いがあることに、気がつきました。言った側は気がつかない、言葉の重みを感じました。小学五年生のときの担任の先生にも似たようなことを言われました。

「いじめはされた側がいじめと思った時点でもういじめなんだよ。」

という言葉です。いじめをした側はそのことを忘れてしまう、まずいじめをしたという、自覚がない。いじめをされた側は一生、心の傷になる。忘れたくても忘れられない。それがいじめなんだと教えてくれました。この言葉を聞いたときとても心が動きました。私がこれまでに口にしたことは誰かにとっては、一生の傷になってしまったのかもしれないと考えたらとてもこわくなりました。言葉の無責任さも知らされました。「嫌い」という言葉には隠された言葉の矢があって言われた側は忘れられないままです。何気なく、口から出た言葉はもう取り返せないままです。これからこのような経験を減らすために、自分が口にする言葉をよく考えたいです。

こんな大切なことに気づかせてくれた母親にはとても感謝しています。もし将来、私に子供ができれば母が私にしてくれたように、「嫌い」と「苦手」の話をしてあげたいです。

どんな言葉を使えば自分の言いたいことが伝わるか、これからも考えていきたいです。